

## 高松市移住・定住促進計画（仮称）素案についてのパブリックコメント実施結果

本市では、令和5年2月27日から3月22日までの期間、「高松市移住・定住促進計画（仮称）」素案についてのパブリックコメントを実施しました。

いただいた御意見の要旨及びそれに対する本市の考え方を、次のとおりとりまとめましたので、公表いたします。

1 意見総数 6件（3人）

2 いただいた御意見の要旨及びそれに対する本市の考え

※ 提出いただいた御意見は、趣旨を変えない範囲で、簡素化又は文言等の調整をしています。

No.	意見（要旨）	市の考え方
1	<p>パンフレットやWebサイトで情報を並べただけでは、情報発信として弱い。面白いことをやっていて、なにより移住者を歓迎しているまちであることが伝わるような工夫が必要。</p> <p>また、情報発信において、クチコミの力はとても大事である。若い人が気軽に情報にアクセスしたり問合せができるような場があると有効ではないか。</p>	<p>今後は、実用的な情報を提供するほか、「たかまつ移住応援隊」に登録いただいている「市民サポーター」が移住者目線の生の声を発信したり、「地域サポーター」が地域の人材や特色ある取組を紹介するなど、人と人とのつながりを重視した情報発信を強化し、閲覧者の本市への関心を高めてまいりたいと存じます。</p>
2	<p>地元出身者のUターン(特に大学新卒)に力を入れることはとても大事であり、重点的に取り組む方針としていることは良い。Uターンは定住へのハードルが低く、戻ってくるきっかけさえあれば良いため、Iターンの促進よりも費用対効果は高いと考える。</p>	<p>本市では、この計画の策定に着手するに当たり、市内の大学等の在学生652名にアンケートを実施しました。その中で、比較的多くの学生が、就職先を探す際に「自分の夢を実現できる」、「自分の技術や資格を活かせる」、「人や地域のためになる」などを重視しているとの結果が得られましたが、こうした点を満たす市内企業の有無については、7割以上の学生が「わからない」と回答しています。</p>
3	<p>学生にとって、希望の会社に就職できるかどうかは定住に大きく影響する要素であるが、働いたことがない学生の目線では、どうしても有名な企業、福利厚生の良い企業を選びがちになる。学生に高松を選んでもらえるよう、例えば、就業支援の相談会に市のブースを出し、有名ではないが優良な市内企業を紹介するなどの取組を行ってはどうか。</p>	<p>このことを踏まえ、若者の地元就職を促進するためには、特に県外進学者を中心に、地元企業の強みや魅力に関する情報を的確に届けることが必要であるものと存じます。具体的な方策につきましては、いただいた御意見も参考に、効果的な取組を検討してまいりたいと存じます。</p>

No.	意見（要旨）	市の考え方
4	<p>「訪問型関係人口の創出・拡大」に向けた取組が何よりも優先であると思う。来訪者をガイドしたり、地域の方とつなぐコーディネートができる人材が高松に増えることで、遠回りのようだが濃い関係人口の増加に繋がる。</p>	<p>本市では、株式会社ANA総合研究所が中心となって、地方の関係人口の創出や、その先の移住・定住を促進するために取り組む「アグリ・スマートシティ」実証実験プロジェクトに全国で唯一選ばれ、令和4年12月から本年1月にかけて、大都市圏の企業で働く13名の滞在を受け入れました。この実証実験に取り組む中で、御意見のとおり、来訪者と地域をつなぐ人材の重要性について改めて認識したところです。</p> <p>本素案の第4章において今後検討することとしている、県外の「高松ファン」と本市の地域とを結びつける取組につきましては、いただいた御意見も参考に、効果的な取組となるよう検討してまいりたいと存じます。</p>
5	<p>民間事業者と連携し、市内のゲストハウスや長期滞在用の宿泊施設とレンタカーを利用できるパックプランを作ることは有効であると思う。</p>	<p>「お試し移住」や「二地域居住」、「転職なき移住」といった、新たなスタイルの滞在・移住を促進するため、今後、「高松市移住ナビ」等で発信する情報の内容を見直すとともに、いただいた御意見も参考に、実施すべき具体的取組について検討してまいりたいと存じます。</p>
6	<p>市内にテレワークができる施設が増加してきているので、市のポータルサイトなどで情報を集約し発信できれば便利である。</p>	